

令和7年12月4日

養父市議会議長 谷 垣 満 様

総務文教常任委員会

委員長 西 田 雄 一

総務文教常任委員会調査報告書

閉会中において、本委員会の所管事務につき調査したことを次のとおり報告する。

記

- 1 調査年月日 令和7年11月7日（金）
- 2 調査事項 岡山県美咲町独自の子育て支援制度について
- 3 調査内容
別紙添付（委員派遣報告書）

（まとめ）

今回視察を行った美咲町は、養父市の人口や面積をひと回りもふた回りも小さくした中山間地域であり、地域ぐるみで実施している独自の子育て支援策は、地域コミュニティの維持・活性化にも大きく貢献していると感じるものであった。

養父市では廃校に民間企業等を誘致して活用しているが、美咲町では様々な公共機能を集約し、地域住民が集まり地域の核となる施設として公民館活動や子育て支援のために廃校を有効活用しており、そのために財源を投じている点は、養父市でも参考にしたい。

また、婚姻数の減少が根本的な課題であるとの認識は、養父市とも共通する重要な課題であると思われる。若者の出会いの場を創出するなど、結婚支援から始まる一貫した少子化対策の必要性を再認識した。

視察を終えて感じたのは、まちが小さくなることは、必ずしも豊かさを失うものでないということである。財政の厳しい小さな自治体ほど、人口減少が避けられない現実を直視し必要なところに資源を集中させる「賢く収縮するまちづくり」を当局とともに真摯に考える必要があると感じた。

委員派遣報告書

総務文教常任委員会の委員派遣調査結果について、会議規則第 101 条の規定により、下記のとおり報告する。

令和 7 年 12 月 4 日

養父市議会議長 谷 垣 満 様

総務文教常任委員会
委員長 西 田 雄 一

記

- 1 目 的 「岡山県美咲町独自の子育て支援制度について」の管外調査のため
- 2 派遣場所 岡山県美咲町
- 3 実施日 令和 7 年 11 月 7 日（金）
- 4 派遣委員 西田雄一、石本 毅、川瀬 稔、北山 愛、高橋展子、津崎和男、井戸弘美、深澤 巧 以上 8 人
- 5 調査報告

(1) 美咲町独自の子育て支援施策について

美咲町は、岡山県の中山間に位置し、面積 232 平方キロメートル、人口約 1 万 2 千人、65 歳以上の高齢化率が 4 割を超えた小さな町である。

そのような中、美咲町は「こどもの笑顔はみんなの幸せ 子本主義美咲町」をキャッチフレーズに地域ぐるみで子どもの成長を支えていく町を目指しており、子育て施策においては二拠点・移住に関するサイトで「子育て支援おすすすめ」自治体の全国 4 位に選ばれている。

また、放課後学習サポート、児童館を備えた 2 校の小中一貫の義務教育学校、公営の「みさきっこたいいく教室」、3 か所の子育て支援センター、出産子育て交付金の支給、新婚向け賃貸住宅家賃補助など、きめ細やかな支援策を展開している。

さらに、町の中心部には、図書館や物産センターなど 6 つの機能を集めた多世代交流拠点や、高齢者向けの「通いの場」が 21 か所、自治会単位の「小地域ケア会議」は 72 か所で行われている。

このように、子どもたちだけでなく高齢者も含めた多世代交流など地域の絆とつながりを基にした「人の力」による地域再生にも力を入れている。

(2) 子ども第三の居場所「みさキッズあさひ」について

子ども第三の居場所美咲拠点「みさキッズあさひ」は、2025年4月1日にB&G財団などの支援を受け、NPO法人「ファミリーリングあゆむ」の運営でオープンした。

本施設は、子どもが信頼できる大人や友達と安心して関わりながら、子ども一人ひとりが将来の自立に向けて「生き抜く力」を育むための支援を行っている。また、ここを中心としたさまざまな機関との連携により、誰ひとり取り残さない地域子育てコミュニティの形成を目指している。

利用者は、保育園児をはじめ、小学校1年生から中学校3年生、そして高校生であるが、その中で特に小・中学生の児童・生徒には学習サポート「寺子屋あさひ」を実施し、放課後などの時間を利用して、宿題や持参のドリル、施設が準備した教材などの課題を主体的に学習し、「やりきる」姿勢を大切にしていることは注目すべき内容であった。また、様々な体験活動を通じて子どもたちの成長を支援しているほか、学童図書も数多くそろえ、学習後は読書の時間として過ごすことも可能となっており、単なる放課後の居場所の提供にとどまらず、子どもたちの多様なニーズに応じた支援体制を構築している。